

議会活動報告・5月特別号

新庁舎 市民とともに歩む 開く



いながき



いとう

基本計画(案) 吉川市は庁舎建設検討委員会の「スピード感を持って推進すること」を求めた提言を受けて、新庁舎を28年竣工をめざし、おあしす隣接地に建設する方針を決定。庁舎建設推進本部のもとに、施設、周辺環境、利用の3部会を設置し中堅職員を軸に基本計画案を作成。おあしす周辺のきよみ野住民に対する説明会を開くとともに、その内容をホームページに掲載(全60ページ)。4月24日から5月23日まで1ヶ月にわたり市民意見＝パブリックコメントを募集。

～基本計画〈案〉を公表～

＜安全で快適な拠点に＞ 庁舎建設の基本理念は「安全で快適なまちづくりの拠点として、市民とともに歩む開かれた庁舎」。今回の基本計画(案)では先に確認された▽安全・安心の拠点。▽市民に親しまれる▽交流・連携・協働の推進▽環境に配慮▽効率的で変化に対応▽機能的で経済合理性の6項目の方針に加えて、▽市民に開かれ議会活動が円滑に行える機能が追加されました。そして▽敷地利用の考え方▽新庁舎に導入すべき具体的機能や施設▽発注・選定・スケジュールの計画を明示しています。

＜庁舎配置3案を併記＞ 新庁舎の建設はおあしす隣接地。庁舎規模は8200㎡程度(現在の2.1倍)。駐車場台数は来庁者用169台(おあしすと共用)。公用車用56台(敷地内)。概算総事業費35億1千3百万円。今回新たに提示されたのは庁舎の配置パターン(裏面参照)。現状とともに、新庁舎を南側、北側、中央に配置のそれぞれのパターンについてそのプラスとマイナス。課題を列記。路線バスの動線や停留所位置についても併記しています。

＜バリアフリー 市民利用 防災＞ 基本的空間(スペース)として▽窓口空間▽市民・市民活動空間▽執務空間▽議会空間▽災害対策・備蓄・警備など▽トイレ、階段などの共用空間を想定。▽バリアフリー、キッズコーナー。ユニバーサルデザイン。▽各種手続きの利便性。▽ATM、コンビニか売店。軽飲食の自動販売機や食事スペース。▽ロビー壁面での市民活動や芸術・文化の発表。庁舎の階数については未定ですが、市民生活に直結する部門は低階層に配置を検討。災害に対応できる強固な建物。施設、設備についても災害対策の指揮や情報の受発信に支障がでないものに。必要な物質・器材の備蓄倉庫も。

＜市議会議場も開放＞ 市議会での話し合い。市民意見も参考に。21世紀型の開かれた議会づくりをめざしています。▽ITの時代。パソコン、インターネット、放映システム。専用図書館▽議場は可動式の机、椅子。これは閉会時の多目的利用を想定。今後のスケジュールは6月中に基本計画の決定。7月中メドにプロポーザル方式(行政との協議で設計案を固める)による公募。年内の基本設計。ついで実施設計へと進むことになります。市では基本設計の公表にあわせて再度パブリックコメントの実施を予定しています。

いながき茂行 栄町782番地1C-1101 TEL&FAX 983-1628E Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com

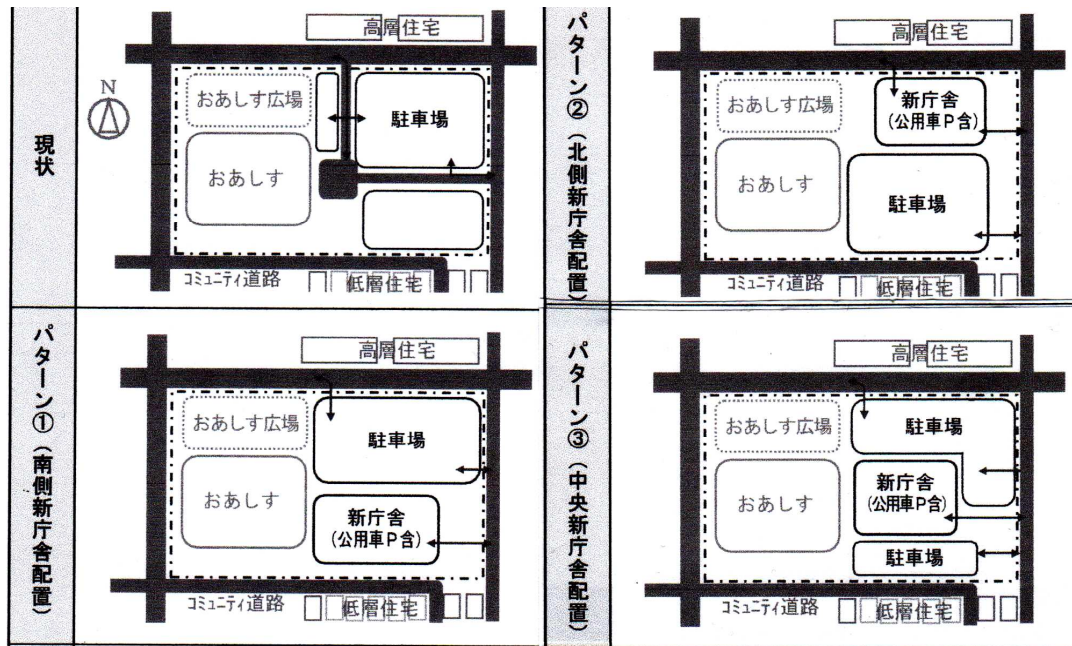
いとう 正勝 きよみ野2-8-2 TEL&FAX 983-1117 Eメール itoh72@nifty.com

*市民改革クラブのホームページは いながき茂行のサイトと統合しました <http://www.inagaki-s.com>

《庁舎施設配置パターン》

吉川市新庁舎建設基本計画(案)から一部抜粋し
ご紹介します。市ホームページにも掲載されてい
ます。

現状と南側、北側、中央配置のイメージ図です。



《事業の各年度におけるスケジュール》

| 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 |
|----------|----------|----------|----------------|----------|-------------|
| 基本計画 | 基本設計 | 実施設計 | 建築工事に 係る手続き | 建築等工事 | 現庁舎 解体設計 |
| | | | | 引越 | 現庁舎 解体工事 |

現段階での概ねのスケジュール。基本計画の考え方を基本設計、実施設計に反映して工事着手へ。上記スケジュールには、各工程での発注に係る手続き期間も含まれています。

《発注方法》

新庁舎の設計、施工、維持管理・運営の各段階において、採用すべき発注方法については、選定過程の透明性、客観性、公開性を確保することを重視。総合的な視点から決定します。設計者の選定方法としては、行政との協議(庁舎レイアウト、行政(議会を含む)機能以外に必要な適正面積等)により設計案が固まっていく「プロポーザル方式」によるものとし、公平性を確保しつつ設計者の選定を行う。効率的な工法・構造の設備等についても検討します。

※この選定委員会を7月までに発足予定。委員は学識経験者2人、庁内から2人、市民などで構成の考えで選考中とのこと。

どう仕上げるのか 吉川ブランドの発信を！

新庁舎大詰めに
正念場つづく
いとう 正勝

新庁舎建設の基本計画。その原案がまとまり、市ホームページにも掲載、公開されています。概要版20ページ。全文60ページ。概観しての感想は、これまでの議会議質疑や検討委員会の報告、市民の声を受けた相当踏み込んだ21世紀型の発想をとり入れた内容になっています。市長をはじめ担当の部課、中堅職員意識の中に、「市民に開く、ともに歩む」のキーワードの浸透が感じられ、素直に評価できるレベルと受けとめました。

平常時と非常時
全国のモデルに

これまでの庁舎は一般的に職員中心、議員のための議会棟の発想で、霞が関や県庁、国会や県議会のいわばひな型。地域の実状や住民との関係は配慮に乏しいものでした。大災害を契機に、いざという時に防災拠点の役割を果たせないと新庁舎建設にカジを切ることになりましたが、平常時と異なり、非常時にはそれに対応する柔軟で多目的利用のできるオープンなスペースも必要です。それを可能にする設計と構造。それは確定申告や市民まつり、文化祭など一時的利用にも役立つこととなります。市議会の議場は最大でも3カ月程度の活用。市民や職員との共同使用は当たり前でしょう。ポイントはどこまで本気で開くのかということ。これからが正念場です。

大胆で新鮮
細心の目配りを

28年度竣工。出来れば5月連休の引越しを想定。吉川市ではこの6月に基本計画を決定。プロポーザル方式での公募。一次、二次審査を経て9月中には業者選定を終わりたい考え。「安全・快適」で「開く・歩む」の精神に基づくこの計画を仕上げるには細部にわたるまで目配りが欠かせません。▽玄関は、ロビーは、窓口業務は。▽出入り口や動線。配置、間仕切り、スペース。▽耐震も省エネもITの機器も。華美でなく、長寿命のコスト意識をもって吉川の総力が試されることとなります。先端を行く有能な業者の選定。その後の意見交換と調整、これからの詰めが大事です。

おあしすは市民が誇れる施設ですが、雨期には玄関に土嚢が必要。画竜点睛を欠き残念です。複合の吉川小学校の公民館分館は事実上基本計画が

固まった段階で議会での提起を受けて追加に。新設の美南小学校は体育館も校舎に組み込んでさらに一歩前進しています。プロの仕事と力量に信頼を寄せながら成熟の市民社会、地域のニーズにどう向き合い具現化できるのか。

成熟の市民社会へ 周辺との調和も

建設用地はきよみ野の住宅街。庁舎の高さ、階数。景観もみどりも。駐車場はイベント時の活用も考え、職員用との兼用で運動公園の一部空中の活用も検討しては。おあしすと連動。バス停。コンビニの配置場所。庁舎の内と外。将来の発展や変化も見据えた最善の取り組みが求められます。私たちも継続してウオッチし、提言、指摘を致します。どうぞご関心を！ご意見やご要望をイエローボックス、ホームページ等でお届けください。



『公取委』吉川松伏医師会へ立ち入り検査

予防接種料金でカルテルの疑い!

4月23日、インフルエンザの予防接種の料金でカルテルを結んでいた疑いが強まったとして、公正取引委員会が独占禁止法違反の疑いで吉川松伏医師会を立ち入り検査した。

65才未満のインフルエンザ予防接種は自由診療にあたり、各医療機関が独自に料金を設定できる。1,000円前後で仕入れたワクチンに診察料や技術料などを加えて料金を決める。一般的には同一地域でも2000円～5000円程度と幅がある。

医師会では数年前から、年度ごとに理事会で価格を設定し、会員に通知し守らせていた疑いがあるということで、今回の立入調査となった。

『推奨価格』を文書で通知

直近の2012年は、13歳以上1回目 4,450円以上、2回目 2,900円以上、13歳未満1回目 3,700円以上、2回目 2,600円以上となっていた。ほとんどの医療機関が推奨価格を守っていたようだ。

数年前より私達市民改革クラブへも、『吉川の予防接種は高い』『三郷や越谷市は安い』との声があったが、市民の命と健康を守る医師達がこのような取り決めをしていたことは誠に残念である。医師会はその責任を明らかにするとともに、自浄能力を発揮し信頼回復に努めていただきたい。

『かかりつけ医』は地域住民の信頼関係が基本

高齢化が進む中、私たちが住み慣れた家や地域で暮らして行く為には『かかりつけ医』が必要です。地域での医療と介護の連携をはじめ、成人病予防や訪問診療、最後は看取りまで。『かかりつけ医』の役割・責任は大きく、本人はもとより家族や支えている全ての人との信頼関係が基本ではないでしょうか。とりわけ吉川市民として、地域での医療活動をされている先生方には、信頼し合える医療活動をお願いしたい。

医師会除名と指定機関抹消問題

これまで無料で受けることが出来た4種混合や日本脳炎等の予防接種が、大久保クリニックで受けられない事態が4月から起きている。無料で受けるには、事前に市役所で『区域外申請』を行い、予防接種後に全額自己負担した領収書を市役所に提出。1～2か月後に振り込まれるという。1歳未満では10回以上のワクチン接種があり、負担は大きい。

市民にとって迷惑かつ不便な状況は、医師会が運営をめぐる対立から大久保医師を除名し、市が指定医療機関から大久保クリニックを抹消したために起こった。

予防接種の主体である市は、『従来より予防接種やがん検診等委託事業は、医師会と契約している』医師会の名簿に記載されていないので、今年度の指定医療機関から除外した、としている。そして、市民に配布している市内の『医療機関マップ』にも載せなかった。

大久保医師は、医師会の処分を不服として地位確認を求める訴訟を東京地裁に起こしている。また、吉川市に対しては指定医療機関に戻すよう求めているが、市は『医師会への委託は長年の慣行』と拒否している。

市の判断・対応は正しいのか?

医師会からの除名理由は、大久保医師が数人で『吉川医師会』を作ったこと。そして、運営をめぐる対立の一つが『インフルエンザの予防接種の料金』問題。値下げの主張が通らなかった大久保医師が独自に値下げしたという。いずれにしても、医師会内部の対立のツケを市民に回されても困る。市は市民の不利益解消の為、早急に解決へ向けた取り組みをすべきでは。(いながき記)

い のク ヒ 半取クも 方いる立れい い外記きの業地40な話 様7立委
て行はで出ブ乳分りでは昨的。よやば等 巨てし載たの健をを域年そ 扱でマ子時 ち
、政当検産や幼以上は5年、9、正いな争は犯の、。れ院のじ療はは医療、吉川 師
仕は然診しボ児がて77吉しご関に別罪脱税やの事い対持学推進し、市の産院として
事をちは受行オ受市い0人川いとわ、だに手やの業の『市は』名簿し
してんないさつけ、るの。人大では、方は一医染めは委託先定医
てほ市か。たいクニは、 少近久生限片は一医染めは委託先定医
(いながき) 見どもニ子ど 一なす対あ

編集後記

『吉川松伏医師会へ公正取引委員会が独占禁止法違反の疑いで、立ち入り検査』。4月23日午後7時のNHKニュースで、その様子が全国に放映された。話で聞いていたが、これ程大きな扱いは、元会長を除名。40年間、吉川唯一の産院として地域医療を推進し、市の委託事業の健康の維持・増進に従事してきた医療機関の対し、市は『名簿に記されていない』と主張している。これは、医師会内部の対立のツケを市民に回されても困る。市は市民の不利益解消の為、早急に解決へ向けた取り組みをすべきでは。(いながき記)